

元稲荷古墳

もといなり こぶん

古墳の仕組みや変化

みんなて感じてみよう！

代々の王墓が残る向日丘陵

向日丘陵上には、3世紀後半～4世紀の王(首長)墓があります。元稲荷古墳は、出土した埴輪から最も古い前方後墳と考えられています。調査で大きさがわかっている五塚原古墳(全長約91.2m)、元稲荷古墳(全長約94m)、寺戸大塚古墳(全長約95m)は、当時の大王墓と見られている奈良県の箸墓古墳(全長275m)のちょうど3分の1の大きさです。墓を残した王は、中央政権とのつながりを持つことで、この大きさと形の古墳をつくることを許されたのでしょう。王達は、交通の要所であるこの地域の実権を握っていたのではないのでしょうか…。



3世紀末～4世紀の王墓が残るのはめずらしいんだよ！



元稲荷古墳を空から見てみよう！

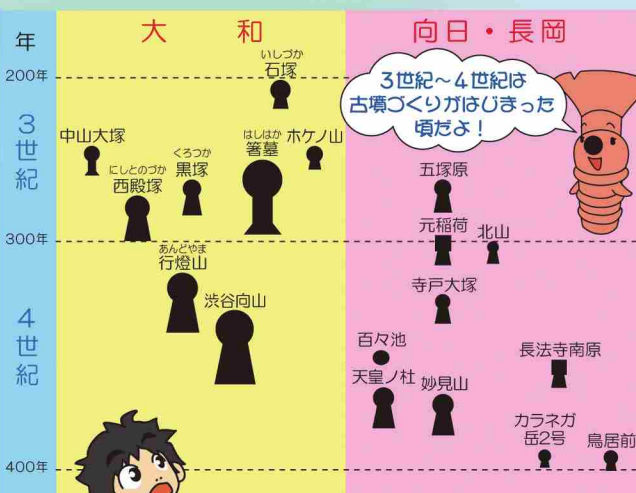


「鎮守の森」の中に前方後墳があるんだ。



向日神社と隣り合わせになっているね！

木がなければ360度見渡せるわ。



すごいなあ～

古墳変遷図

アクセス



発行 向日市教育委員会

〒617-8665 京都府向日市寺戸町中野20番地 TEL.075-931-1111

なぜ古墳をつくったの？

いつから古墳時代？

3世紀中頃、各地の有力者(首長)は、権力と権威を示すために、盛土をしたお墓(古墳)をつくりはじめました。3世紀中頃から6世紀までの約350年間は、古墳が時代の変化をよく表すので、「古墳時代」といいます。元稲荷古墳は埴輪の特徴から3世紀末頃の古墳とわかりました。

古墳の大きさはどのくらい？

全長 : 約94m

前方部幅 : 約47m

前方部長さ : 約43m

後部長さ : 約50m

後方部幅 : 約49m

前方部高さ : 約4m

後方部高さ : 約7m

くびれ部幅 : 約24m



1960年(昭和35)、後方部頂上に配水池施設が設置され、たてあなしきせっかく 竪穴式石槨発見のきっかけになりました。

現在、古墳とその周辺はかつやまこうえん 勝山公園として、誰でも気軽に見学し、楽しむことができます。

なぜ元稲荷古墳というの？

古墳後方部の頂上には昔、向日神社の稲荷社があったことにちなんで、元稲荷という名前が今に伝えられたのでしょう。



王を葬る場・竪穴式石槨

後方部の中央は首長を葬ったところです。一番下に粘土をしき、その上にいただし 板石をていねいに積み上げ、長方形の部屋(石槨)がつくられました。全長5.6m、北端幅1.3m、南端幅1.0m、高さ1.9mと長く大きい部屋でした。天井石は11枚あります。遺体を葬り、とむらいのマツリが終わると土で埋めもどされました(右図)。遺体は、竹を割ったような形(割竹形)の木棺におさめられていました。刀剣、槍、鏃、斧、鑿、刀子、鋤、鍬先などの副葬品も残されていました。



後方部 3段築成 (埋葬の場)



前方部 2段築成 (マツリの場)

墓石

勝山公園

現在

昔

くびれ部

北

南

元稲荷古墳は、なぜ前方後方墳？

墓の形が身分を表す時代になったことと関係します。もともと、弥生時代の墓は方形か円形で、墓の形は被葬者の出身や首長間のつながりを示していました。古墳時代になり、前方後円墳と前方後方墳がつくられはじめたとき、大和(奈良県)の中央政権は、前方後円墳を最も地位の高い人の墓と決めました。前方後方墳は一段階地位の低い人物の墓となりました。

もといなりこふん

ぜんほうこうほうふん

葺石の役割

小さな河原石を小畑川から運び、古墳表面の崩れを防いだり、墓を飾ったりするために葺いています。

一番下には、土台となる大きい丸石や板石を置き、しっかりと積み重ねていきます。当時は、古墳のほぼ全面に葺かれていたようです。



現在、後方部の斜面には石槨の天井石が残っているよ！

葺石や天井石はたくさんの人々が運んでいたんだろうね！向日市文化資料館に行ってみてね！天井石が展示されているよ。

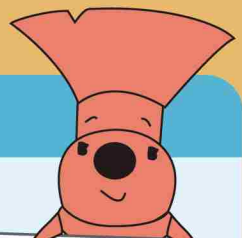


埴輪のルーツ



とくしゅきだいがた 特殊器台形埴輪・壺形土器の発見によって、3世紀末の古墳とわかりました。

埴輪のルーツは、弥生時代の墓に供えられた壺と器台形土器です。古墳づくりがはじまると、2つの器がくっついた朝顔形埴輪がつくられました。



前方部 (マツリの場)

埴輪で四角形に区画されていました。亡くなった首長を埋葬する時、この場所で死の世界へのとむらいの儀式(マツリ)を行ったと思われます。墳頂中央には南北約2m、東西約4mの範囲に壺形土器をのせた特殊器台形埴輪が6~7個立てられていました。



お墓の上でマツリをするのね。

現在のお葬式とはちょっと違うみたいだね。



ふん